

- ・ エッセイ…… 1
- ・ 境川遊水地公園「せせらぎ水路自然教室」…… 1
- ・ 共働舎「とんぼガーデン観察隊」…… 2
- ・ 「心とからだでのびのび」…… 3
- ・ トンボはドコまで飛ぶか調査 2010…… 3
- ・ 馬入水辺の楽校…… 4
- ・ 田んぼから—水抜き—…… 4
- ・ トコロジスト…… 4

虫取りの悩み子どもの頃「虫取り少女」だった私は、その続きを今またやっている感じである。いろんな場所に虫は潜んでいるが、公園もその一つだ。ただし、公園では、自治体の条例や公園独自のルールで昆虫も含む動植物の採集が禁じられている場合が多い◆都市において公園は自然と直に接することのできる貴重な空間でもある。一方、大都市であればあるほど、小さな自然に群がる「採集圧」というものが増大する(種類によるが)ので、これはジレンマである◆捕まえてもいいけど、その場で観察したら逃がしてあげよう、というのが、次善の策だと私自身は考えている。いや、むしろ積極的に捕まえよう、と言いたいのだが、それも状況によってはなかなか難しいこともある◆生きものは、実際に触ってみることが大事だ。その柔らかさやはかなさ、逆にかまれたり暴れられたりして、必死に生きようとする強さも体感できる◆本当は、ただ禁じるのではなく、観察会などを通じて生きものとのつきあい方なども教えていかななくてはならないのである。そうだ、そのことをもっと意識していこう。



★境川遊水地公園★横浜市泉区と戸塚区にまたがる当公園にて、今年も「せせらぎ水路自然教室」を担当させていただくことになりました。去年は全2回シリーズでしたが、今年は今5回です。

- ①5/15(土)自然観察
- ②6/19(土)管理作業
- ③7/31(土)管理作業
- ④8/21(土)地域の自然観察
- ⑤10/16(土)自然観察とまとめ

①まずは「現状把握」。どんな生きものがすんでいるのか、いないのか?→もっと多くの生きものが喜んでやってくる場所になるにはどうす

れが良いか?トンボを例に考える(トンボは水辺環境を考えるのにわかりやすい生物です)→②③管理作業(エコアップ)実施!→④周辺地域とのつながりも考える→⑤再び生きもの調べをして、管理作業の効果を確かめ、次のアクションを考える!

ざっとこのような流れで進んでいきます。今回は小学生親子約20名の皆さんと一緒に。元気いっぱいの子、少しはにかみやの子、生きもの好きのお母さん、いろいろ考えながらのお父さん、などなどいろんな個性を持った面々が集まりました。第1回で見つけた生きものは、アメリカザリガニ・カダヤシ・マメゲンゴロウ・トウキョウダル

マガエル・サカマキガイなどでした。シオカラトンボの雄も飛んできました。残念ながら、ヤゴは見つからず。そこで、原因として、植物が茂りすぎてトンボが産卵できない、外来種アメリカザリガニに食べられて生態系のバランスがくずれている、人が捕っていつってしまう…などを考えました。

第2、3回では、茂ったヨシ・ガマを抜いたり、アメリカザリガニを捕まえたりしました。抜いた草は「ゴミ」ではなく積んで発酵させて「堆肥」にします。草を積んだリヤカーを引くのは子どもたちに人気の

第1回の様子



第2回の様子



第2回の様子(草を堆肥場へ運ぶ)



堆肥場にも興味津々です。すでに積まれていた草に手を突っ込み、発酵して内部に熱を持っていたのを感じました。周囲には甘酸っぱいにおいが。また、捕まえたアメリカザリガニは駆除しなければならないので、境川遊水地

第3回(ザリガニのに入った容器を運ぶ)



第4回(ヒメウラナミジャノメ)



第4回「何かいた〜？」



情報センターで飼っているナマズのエサにしました。第4回では、周辺地域とのつながりを考えるために、外に「生きもの探検」に出掛けました。公園内の草原ではバッタ類がたくさん！水路ではカエルも見つけました。もちろん、トンボもシオカラトンボやウスバキトンボが多数飛んでいました。外では田んぼや雑木林、林縁の沢沿いの環境などでカエルやオニヤンマなども観察しました。この回がもしかしたら一番楽しかったかな？環境によって生きものが棲み分けていること、せせらぎ水路と行き来している可能性のある生きものがあること、などに気づいてもらうのがねらいでした。

さて、10月の最終回ではどんな発見があるでしょうか？楽しみです。★公園 HP ↓

<http://www.kanagawa-park.or.jp/sakaigawa/>

★共働舎とんぼガーデン★知的障がい者の障害福祉サービス事業所 共働舎(横浜市泉区)でのビオトープ観察と維持管理「とんぼガーデン観察隊」(全6回)も今年で3年目となりました。

第1回(5/29)は、とんぼガーデンにいる生きもの調べです。最初にトンボの棲み分けについて簡単に話をします①。いよいよタモ網を入れると、ヤゴとメダカがたくさん採れました②。ヤゴは、どんな種類のトンボなのか、識別チャートと顕微鏡で調べます③。その結果、シオカラトンボ・オオシオカラトンボ・ショウジョウトンボのヤゴとクロスジギンヤンマのヤゴの羽化殻が見つかりました。このこ

とから、明るい開けた水面・少し暗い開けた水面・少し暗い水草のある所、といった環境がこのビオトープに備わっていたことがわかりました。足りないのは明るい水草のある所(ギンヤンマ)、植物の密生した所(イトトンボ)といった環境のようです。

第2回(7/24)では、こうしたことも踏まえて、管理作業をしました。水際のモミジが大きくなり日陰を作りすぎていたので、思い切って太目のひとえだを切りました。また、第1回から2ヶ月空いたため植物がかなり水面を覆っていたので、開けた水面を作るために水面の真ん中の草を抜き、一部を両脇に植えてイトトンボのために密生状態を作るようにしました。そのほか、岸辺の土留めの為にツユクサ、クサイ、ヘビイチゴなどを植えました。いずれも敷地内かこの近所で採集したものです。猛暑の中、みんながんばったよね～！

利用者さん向け観察会も春(5/14)と夏(8/17)に実施しました。春はおなじみのくフィールドビンゴ>で身近な自然を五感で感じ、もうひとつ、「いろいろ色さがし」でとんぼガーデンの木や草花などからいろん





な色を探し出しました。色カードとそっくりの色を見つけてくる人もいましたよ。夏は、やはり<フィールドビンゴ>を行い、春との自然の様子の違いを感じました。もうひとつは、<サウンドマップ>で、静かに耳をすませてまわりの自然や自分自身と向き合う時間を



を作りました。そして音を白いカードの上に自由に表現してみました。私自身もゆっくりと時間を共有しました。

☆共働舎ピオトープ事業は「人と自然の研究所」との協働展開です☆

★心とからだでのびのび★今年も6/6(日)に「心とからだでのびのび 自然と遊ぼう、ふれあおう」を担当させていただきました(主催:新宿子ども劇場、新宿・子育てを考える会/於新宿御苑)。毎年楽しみにしていただ



さるご家族もあり、私も嬉しいです！幼児から小学生まで親子が午前・午後で述べ100人近く参加されました。午前中の小さい子向けは「冒険」がテーマ。アジサイがたくさん植わっている「アジサイの森」をくぐりぬける冒険からスタート！



そのあとは「木に登る」「木苺を食べる」「笹舟で川くだり」…などの冒険を繰り広げ、最後は原っぱのどこかに隠れているお父さんやお母さんを探しに出掛けました。冒険は、普段やらないことを、ほんのちょっとがんばってやってみること。みんな、ワクワクドキドキしたかな？

午後のちょっと大きい子向けは「探検」がテーマ。にっいの探検、音の探検、そして地面の上のミクロの世界を探検！<ミクロハイク>です。立っている状態から徐々に視線を地面へと近づけ…最後には虫眼鏡を使って腹

ばいになって地面の上をアリのように探検していきます。意外とお母さん方ははまっていて、あちこちで倒れて？いる光景は知らない人が見たらどうだっただろう～(ニンマリ)。

おとなも子どもも、からだと心をのびのび～っとできたかな？私もみなさんと、のび～っとしましたよ♪



★トンボはドコまで飛ぶか 2010★2008年に

続いて2度目の参加となりました「トンボドコまで本調査」。横浜市の京浜工業地帯にある10ヶ所の企業や施設などで、飛来してくるトンボを捕まえて番号を翅に書き込み、すぐ放すという調査を同時に行うことで、この地域のトンボのネットワークを把握、検証することが目的です。私はマツダ・JFE エンジニアリング・東京ガス環境エネルギー館の3ヶ所へ行きました。トンボの生息地として、どこも担当者の方の熱意が伝わってくるような工夫がされていましたが、例えば JFE エンジニアリングには立派な水辺ピオトープがありました。

一昨年までは敷地内でトンボを捕っていたそうですが、もっとトンボがやってくる場所にしたい！と昨年ピオトープを作ったそうです。水草と開けた水面がバランスよくある明るい水辺で、この日はシオカラトンボやショウジョウトンボ、ウスバキトンボ、そしてギン



ヤンマもやってきました。こちらの JFE エンジニアリングほかの方たちと一緒に5人で実施しましたが、みんな網を持った虫取り少年・少女に変身！飛び入りで近所のお孫さんを連れておじいちゃんもたくさん捕ってくれました(すぐ



い名人でした！)。このビオトープがいいなあと思ったのは、このように近所の人が気軽に立ち寄ることができるということです。そして、

相模川は大きいです！神奈川県東西のほぼ真ん中を縦に流れるこの川は、様々な意味で神奈川県自然や人々の生活に影響を与えています。生物の分布も、相模川を境に傾向が異なったりします。



泥の上を歩くカニ

「トンボみちファンクラブ」という会もあり、集まって楽しく手入れなどを行っているそうです。

「生きものも人も喜んでやってくる場所」、そんなビオトープが私も目標です！

★馬入水辺の楽校★国土交通省が全国で推進する「水辺の楽校」プロジェクト。水辺での遊びや自然体験、環境学習を目的に各地に作られています。その一つが「馬入(ばにゅう)水辺の楽校」。神奈川県平塚市の相模川河口にあり、7/25(日)のエコアップ活動にお邪魔しました。これは、ビオトープの仕事を一緒にやっている三森典彰さん(FORESTTHREE 代表)がすでにここで仕事をしています、今回私にも紹介してくださったのでした。

この日は、ヨシ原のヨシ刈りを中心に実施し、そのあと、広い川原に出て生きもの観察も！カニやエビ、小さな魚もいっぱいいました♪

今後、私もこのフィールドでご協力をする事になりました。フィールドの魅力を活かし、関わる人たちが楽しくできることを考え、湿地あり、池あり、川あり、草原あり、の多様な環境を私も大いに楽しみたいと思います！



★田んぼから～水抜き～★今年春は寒くて苗が育たなかったが、その後の猛暑でだいぶ取り返した感じの稲たち。8月に花が咲き、少しずつ頭を垂れてきました。8月の終わりから水を抜き、「さあ～実を太らせる時が来たよ～」と稲に知らせます。果たして今年の実入りはどうか。稲刈り、ハザ掛け(天日干し)、脱穀…とまたいそがしい秋がやってきます。



★トコロジスト★かさまの杜保育園(横浜市栄区)で、ビオトープのメンテナンスを月に1回程度行っている。8月にうかがった時のこと、水路の周りのよく伸びたチガヤをどうしようかなあと考えていた。その時に職員の大竹さんがいらしたので話をしていると、最近ハトがよく水路際の草むらに来てすわっているのだとか。それを聞いて、チガヤも残すことにした。やはり、毎日身近にその場所を見ている人が一番、その場所についてはよくわかっていると再認識した。今年亡くなった浜口哲一さんに「トコロジスト」という造語があるが、その地域を多面的に知るスペシャリスト、専門家、という意味。施設などに作る水辺ビオトープでも大事な考え方だと思う。



ビオトープにいたキアゲハの幼虫

〇〇お知らせ〇〇 「あおぞら通信」が(株)榎澤電機製作所様のご好意で、同社の関連HP「パン屋さんよろず相談所」の一角にNo.1から掲載されています。よろしければどうぞご覧ください！ <http://www.kusizawa.com/>



★自己紹介★私は、里山型公園のスタッフとして自然の保全や体験活動などに携わる一方、フリーランス(あおぞら自然共育舎)で自然体験・再生・創出の仕事をしています。「体験による気づき」を大切にするのが信条。

★この通信では仕事内容の報告や、日常で自然とのふれあいを楽しむヒントなどもお伝えできたらなあと思っています。ご家族やお友達との回し読み歓迎！ ☆ネイチャーゲームインストラクター・ビオトープ管理士・人と自然の研究所客員研究員 ☆横浜市戸塚区在住、1963年6月生まれ。



仕事の相談、感想はこちらまでお気軽に！ → hiromi-h@river.dti.ne.jp 早川広美 (あおぞら自然共育舎)